

第Ⅱ部 ワールド・カフェ

「みんなで楽しめるアートプログラム・美術館とは？」

14:45～17:05 (140分)

ワールド・カフェとは、4～5人が1つのテーブルに集まって、正解を求めずにオープンに会話することで、お互いの思いを共有したり、気づきやアイデアを生み出していく話し合いの方法です。言語や文化など、さまざまなことにバリアを感じている方が入れ替わりながら、カフェでお話しするように、みんなで楽しめるアートプログラム・美術館を考えていきます。

*本年10月には、4つの美術館が本フォーラムでの「気づき」を活かした教育普及プログラムを実施する予定です。



ファシリテーター 海老原 周子(えびはら しゅうこ) Shuko Ebihara

一般社団法人kuriya代表(東京都新宿区)。ペルー、イギリス、日本で多様な文化に囲まれて育つ。慶應義塾大学卒業後、国際交流基金や国際機関で勤務。2009年に移民の子どもや若者を対象としたアートプロジェクトを立ち上げる。2014年からは移民の若者に焦点をあてダイバーシティ人材の育成に着手。アート活動を通じてライフケースルを提供するプログラムを実施。2016年にEUが主催するGlobal Cultural Leadership Programmeに日本代表として選抜される。



ファシリテーター 立浪 佐和子(たちなみ さわこ) Sawako Tachinami

金沢美術工芸大学大学院芸術学専攻修了。2005年より横須賀美術館学芸員。展覧会事業のほか、地域の学校や保育園との連携プログラム、福祉関連の普及事業を担当。「トリック&ユーモア展」(2011)など、「美術館は敷居が高い」と言う人を誘い込むような展覧会を考えるのが好き。



ファシリテーター 藤川 悠(ふじかわ はるか) Haruka Fujikawa

1980年生まれ。昭和女子大学生活環境学科建築コース卒業。広島市現代美術館、森美術館、東京都現代美術館の学芸部勤務を経て茅ヶ崎市美術館学芸員。現代美術を専門とし教育普及活動を積極的に行っている。企画を担当した主なプログラムと展覧会「ヒルズ街育プロジェクト」(2009)、「じぶんのいっぽ展」(2014)、「正しいらくがき展」(2015)、「じぶんのまわり展」(2016)。その他、第20回文化庁メディア芸術祭アート部門選考委員、女子美術大学非常勤講師を務める。



運営委員会座長 水沢 勉(みずさわ つとも) Tsutomu Mizusawa

1952年横浜市生まれ。1976年慶應義塾大学美学美術史学科卒業。1978年慶應義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務。2008年横浜トリエンナーレ2008「タイムクレヴァス」のアーティスティック・ディレクター。2011年より神奈川県立近代美術館館長。現在に至る。著作に『この終わりのときにも世紀末美術と現代』(思潮社、1989)、『美術館は生まれ変わる』(共著、鹿島出版会、2008)など。



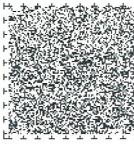
モデレーター 野呂田 純一(のろた じゅんいち) Jun-ichi Norota

1972年秋田県生まれ。1997年大阪大学経済学部卒業。1998年に(財)神奈川県国際交流協会(現・(公財)かながわ国際交流財團)に入職後、神奈川県の留学生会館や博物館等に勤務。2009年-2014年文教大学国際学部非常勤講師(科目「文化施設マネジメント」等)。2013年総合研究大学院大学(国際日本研究専攻)にて博士号取得。専門は文化政策論/博物館・美術館学/日本近代史(美術制度史)。財団では現在、本事業及び調査研究事業を担当。

Session II: World Café 14:45 to 17:05 (140 min.)

The world café, wherein groups of four or five people sit at a single table, is a method for people to share ideas, gain awareness, and to generate ideas through open-ended conversation. Participants will think about and discuss art programs and museums that can be enjoyed by all while individuals who experience various types of language-related and cultural barriers circulate around the discussion tables.

*In October of this year, the four organizing museums are scheduled to host public education programs building on "awareness" generated by this forum.



MULPA ムルパ

Museum UnLearning Program for All

Forum

フォーラム
「みんなで“まなびほぐす”
美術館」

日時：平成29年7月8日(土) 13:30～17:20

会場：関東学院大学関内メディアセンター M-803

主催：(公財)かながわ国際交流財團 神奈川県立近代美術館 茅ヶ崎市美術館 平塚市美術館 横須賀美術館 関東学院大学

(平成29年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業「相模湾・三浦半島アートリンク」)

協力：文教大学国際学部(博物館学芸員養成課程) 女子美術大学芸術学部(アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域)

定員：50名(事前申込制/先着順) 入場：無料 関連ウェブサイト：<http://www.kifjp.org/ace/museum>

When: July 8, 2017 (Saturday) 13:30 to 17:20

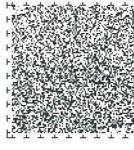
Venue: Kanto Gakuin University, Kannai Media Center M-803

Organized by: Kanagawa International Foundation (KIF), The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, Chigasaki Museum of Art, Hiratsuka Museum of Art, Yokosuka Museum of Art, Kanto Gakuin University (FY 2017 Japanese Agency for Cultural Affairs project to promote cultures and arts through universities "SaMAL = Sagami Bay and Miura Peninsula Art Link")

Supported by: Bunkyo University Faculty of International Studies (museum curator training course), Joshibi University of Art and Design (Department of Cross-Disciplinary Art and Design, Field of Art and Design for Healing)

No. of Participants: 50 (pre-registration required on first-come-first-served basis)

Fee: Free Related website: <http://www.kifjp.org/ace/museum>



開催趣旨

神奈川県内4館の公立美術館の館長・学芸員やアートフェスティバルの実行委員等が(公財)かながわ国際交流財団の呼びかけで集い、「すべての地域住民」の「ミュージアムへのアクセス」を目的としたこれまでにないプロジェクト「マルパ(MULPA: Museum UnLearning Program for ALL / みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業)」を昨年度より立ち上げました。マルパは多様性を認め合う社会を目指して、美術館の教育普及事業をどのように展開すべきかを検討していきます。オリンピックイヤーである2020年に向けては、美術館が本当の意味で地域のハブとなれるよう、「社会を包む」ワークショップ等を参加館で実施していく予定です。マルパの最初のイベントとなる本フォーラムでは、美術館の学芸員やボランティア、NGO等の支援者、大学生等を対象に、美術館を訪れることが難しいと感じている障がいのある方々と、美術館の楽しみ方について真剣にそして楽しく語り合う、ワールド・カフェを行います。

タイムスケジュール

13:30～13:35	主催者あいさつ
13:35～13:50	趣旨説明(運営委員会座長 水沢勉)
13:50～14:30	第一部 オープニングトーク「障がいを超えるアートプログラム・美術館とは?」 (休憩15分)
14:45～17:05	第二部 ワールド・カフェ「みんなで楽しめるアートプログラム・美術館とは?」
17:05～17:15	運営委員からコメント
17:15～17:20	閉会あいさつ

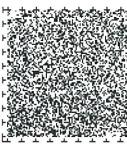
Project Aim

The “MULPA: Museum UnLearning Program for ALL” is a first-of-its-kind program whose aim is to “make museums accessible” to “all members in the community” that was proposed by Kanagawa International Foundation, developed and launched last year by the directors, curators of four public museums and art festival coordinators in Kanagawa Prefecture. The project explores what kinds of educational programs and events of art museums can be put on toward the society to respect each other’s differences.

Ahead of 2020, the year of the Tokyo Olympics, the museums participating in MULPA will host a variety of art workshops that are inclusive to all members of society in order to make the museums community hubs in a true sense. The upcoming first MULPA event features a world café-type workshop whose goal is to promote sincere and lively discussion among museum curators as well as museum supporters including volunteers, civil organization members, university students and individuals who have difficulty visiting museums, including those facing physical and language-related barriers, about how museums can be made enjoyable for all.

Forum schedule

13:30 to 13:35	Welcome message from the forum hosting organization
13:35 to 13:50	Explanation of project aims (Tsutomu Mizusawa, Head of Steering Committee)
13:50 to 14:30	Session I: Opening Talk (15 minute break)
14:45 to 17:05	Session II: World Café
17:05 to 17:15	Comments (Steering Committee members)
17:15 to 17:20	Closing message



第一部 オープニングトーク

「障がいを超えるアートプログラム・美術館とは?」

13:50～14:30 (40分)

オープニングトークでは、自身の障がいを乗り越えながらも、障がいのある方々に対してアートを通じた支援を行う実践者をゲストトーカーに迎え、アートによって身体や言葉の「壁(バリア)」がどのように「可能性」へと導かれるのか、また、障がいの有無にかかわらず楽しめるアートプログラム・美術館とは何かについて、豊富なエピソードを交えながら考えていきます。



ファシリテーター

伊藤 亜紗 (いとう あさ) Asa Ito

1979年生まれ。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授。専門は美学、現代アート。もともとは生物学者を目指していたが、大学3年次に文転。2010年に東京大学大学院博士課程を単位取得のうえ退学。同年、博士号を取得(文学)。著書に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社)、『目の見えないアスリートの身体論』(潮出版)、『ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体の解剖』(水声社)など。作品の制作にもたずさわる。



ゲストトーカー

ライラ・カセム (Laila Cassim)

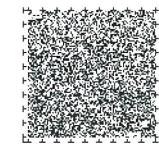
グラフィックデザイナー・東京大学先端科学技術研究センター特任助教。東京都足立区の成人の知的障がい者の通所型福祉施設「綾瀬ひまわり園」を中心に、デザインの専門性を活かしたアート指導を行う。施設の支援スタッフとともに、利用者のアート作品を元にした、社会参加と経済的自立に繋がる持続可能なデザイン商品の企画・制作・開発に取り組んでいる。東大では不登校傾向にあるが才能ある子どもをサポートする「異才発掘プロジェクトROCKET」にも関わっている。lailacassim.com https://rocket.tokyo/



ゲストトーカー

光島 貴之 (みつしま たかゆき) Takayuki Mitsushima

美術家・鍼灸師。1954年生まれ。10歳の頃に失明。1992年から粘土造形を、95年よりラインテープとカッティングシートを使った「さわる絵画」の制作を始める。見えていた頃の記憶をたどりながら色を選び、自分にとっては何気ない日常の感覚をモチーフに、さわる世界の魅力を表現し続けている。触覚に注目したワークショップや、音の作家とのコラボレーション、身体表現にも意欲的に取り組む。対話しながら絵を鑑賞するミュージアム・アクセス・ビューの活動にも参加。



Session I: Opening Talk 13:50 to 14:30 (40 min.)

For the opening talk, we have invited a guest talker who has overcome their own disabilities and is providing support to individuals with disabilities through art. Their talk, including descriptions of various episodes, will undoubtedly stimulate us to think about how physical and language-related “barriers” can be transformed into “possibilities” through art and how art programs and museums can be enjoyed by all people, whether or not they have disabilities.

もうしこみほうほう
【申込方法】 FAX／Eメール

○FAXの場合：下記のフォームに必要事項をご記載の上、お申込みください。

○Eメールの場合：下記のフォームの必要事項をEメールにご記載の上、お申込みください。

もうしこみしめきり へいせい ねん がつ か げつようび じ うけつけご さんか かひ れんらく
申込締切 平成29年7月3日（月）17時 *受付後、参加の可否をご連絡いたします。

Those interested in participating in the forum can register by fax or e-mail.

○ by FAX: Register by sending a fax of the completed form shown below.

○ by E-mail: Send an e-mail with the information from the form shown below.

(Registration deadline: July 3, 2017 (Monday) 17:00) *After your registration has been received, you will be contacted regarding whether or not you will be able to participate.

もうしこみよう
申込み用FAX
FAX for registration

046-858-1210

もうしこみよう
申込み用Eメール
E-mail for registration

mulpa@kifjp.org

もうしこ
申込みフォーム
Registration form

しめい 氏名 Name		*ふりがなをつけてください *Please provide hiragana readings
しょぞく ご所属 Affiliation		
じゅうしょ ご住所 Address	〒	
でんわ 電話 Phone number		
FAX FAX number		
Eメール E-mail address		
さんか りゆう にんい 参加の理由（任意） Reason for participating (optional)		
びこうらん 備考欄 Notes, comments, etc.		

とうろく こじんじょうほう とうざいだん とりあつか ほん あんないがい もくとき しよう
※ご登録いただいた個人情報は、当財団のみが取扱い、本プロジェクトのご案内以外の目的には使用しません。

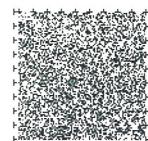
※最寄駅（みなとみらい線）：日本大通り駅、馬車道駅、JR線・横浜市営地下鉄：関内駅）から会場までの送迎が必要な方、また、

手話通訳等のサポートを希望される方は、申込みフォームの備考欄に具体的な希望をお書きください。すべてのご希望に添えない

場合がありますが、その際はあらかじめご相談させていただきます。

※Personal information provided by registrants will be used by this organization only and exclusively for the purposes of this forum and other events hosted by this organization.

※Individuals requiring transportation from nearby train stations (Nihon Odori, Bashamichi(Minatomirai Line), or Kannai stations(JR or Yokohama subway)) or requiring sign language interpreters or any other assistance are asked to make specific requests in the "Notes, comments, etc." section of the registration form. In the case that we are not able to meet a request, we will notify the requester of the circumstances in advance.





【会場までのアクセス】

会場 関東学院大学関内メディアセンター M-803

住所 〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンタービル8F
 みなとみらい線馬車道駅5番出口より徒歩3分／日本大通り駅1番出口より徒歩5分／JR・市営地下鉄関内駅
 より徒歩5分 *会場に駐車場はございませんので、お車の場合は会場周辺の有料駐車場をご利用ください。

【問い合わせ先】

(公財)かながわ国際交流財団湘南国際村学術研究センター(担当 野呂田)

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39

TEL: 046-855-1820 FAX: 046-858-1210 Email: mulpa@kifjp.org Website: <http://www.kifjp.org/ace/museum>

[Event Location Access]

Venue: Kanto Gakuin University, Kannai Media Center M-803

Address: Yokohama Media Business Center Building 8F

Otamachi, 2-23, Naka-ku, Yokohama, Kanagawa 231-0011

3-minute walk from Exit 5, Bashamichi station (Minatomirai Line).

5-minute walk from Exit 1, Nihon Odori station (Minatomirai Line).

5-minute walk from Kannai station (JR or Yokohama subway).

*There is no parking at the event location. Individuals arriving by car are asked to park in one of the nearby pay parking lots.

[Contact Us]

Kanagawa International Foundation Shonan Academic Research Center (contact person: Norota)

1560-39 Kamiyamaguchi, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0198

TEL: 046-855-1820 FAX: 046-858-1210 Email: mulpa@kifjp.org Website: <http://www.kifjp.org/ace/museum>

マルバ運営委員(50音順) 小川 稔(茅ヶ崎市美術館長) 草薙 奈津子(平塚市美術館長) 佐々木 暢行(横須賀市教育委員会美術館運営課長)
 鈴木 理恵子(女子美術大学准教授) 水沢 勉(神奈川県立近代美術館長、座長) 山崎 稔恵(相模湾・三浦半島アートリンク代表)

マルバ作業部会委員(50音順) 岩井 成昭(イミグレーション・ミュージアム東京主宰) 江口 恒明(平塚市美術館主査兼学芸員)
 海老原 周子(一般社団法人Kuriya代表) 兼子 朋也(相模湾・三浦半島アートリンク推進委員) 工藤 香澄(横須賀美術館学芸主査)
 三本松 優代(神奈川県立近代美術館主任学芸員) 高嶋 雄一郎(神奈川県立近代美術館主任学芸員) 立浪 佐和子(横須賀美術館主任学芸員)
 平井 宏典(相模湾・三浦半島アートリンク推進委員) 藤川 悠(茅ヶ崎市美術館学芸員) 粕山 昌夫(神奈川県立近代美術館主任学芸員)